

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは9月30日（水）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		9月29日現在	10月の予想	
			(月末値)	
USD	ドル・円 (円)	157.29	152.0 ~ 164.0	158.0
	米利上げがドルを支えるも、日米の円安けん制が上値を抑制			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.134	1.11 ~ 1.17	1.15
	ユーロ・円 (円)	178.40	175.0 ~ 187.0	181.7
	ECB利上げも、円高と対ドルでの下落が重荷			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.323	1.30 ~ 1.34	1.31
	ポンド・円 (円)	208.13	205.0 ~ 210.0	207.0
	英ポンドは財政不安が重石も、28日の秋季予算案公表前後で持ち直しへ			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	109.88	108.0 ~ 112.0	111.0
	NZドル・円 (円)	88.73	87.0 ~ 91.0	90.0
	豪ドル・NZドルは中銀の引き締め姿勢継続を支えに持ち直す展開を見込む			
株式 相場	日経平均 (円)	65,481	63,000 ~ 70,000	68,000
	中間選挙を控え様子見姿勢が強まろう			
	NYダウ (ドル)	51,350	51,500 ~ 53,500	53,500
長期 金利	中間選挙を控え様子見姿勢が強まろう。米国では金利の高止まりもリスク			
	日本 (%)	3.094	2.90 ~ 3.20	3.00
	利上げ・需給悪化の織り込み進展で金利上昇余地は縮小へ			
	米国 (%)	5.236	4.70 ~ 5.50	5.00
	オールドケイジアンvsニューケイジアン			

◆ 今月の注目ポイント

金利上昇の行方と連続利上げへのハードル

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
日米金利動向	◎	【金利上昇、一服の条件は？】 日米とも金利上昇は、イラン情勢が悪化する中、インフレ警戒の高まりや、利上げの加速が意識されたことに加えて、月末にかけては投資家のポジション調整の動きがあったと推察される。足もとで米国の経済指標にやや陰りが見られる部分がある。合わせて原油価格上昇が一服となってきた。月末のポジション調整の動きが一巡すれば一方向の金利上昇局面に一服感が出る可能性。日米主要指標の動きがカギとなろう。
	○	【日米連続利上げへのハードル】 月末にかけては再度10月利上げの有無が焦点となる。9月に続く、10月の連続利上げはやや行き過ぎの面があるが、10月に公表される経済指標の上振れ、日本では円安の進行がトリガーとなる可能性がある。米国では11月3日の中間選挙を控え、利上げがトリガーとなって株価が崩れる等のリスクはFRBとしても追うのが難しいリスクと言えよう。

◆ アジア通貨見通し

	9月29日現在	10月の予想	
		(月末値)	
人民元・円	23.44	23.00 ~ 24.00	23.00
バーツ・円	4.686	4.55 ~ 4.80	4.60
ルピア・円	0.875	0.85 ~ 0.90	0.89

◆ 今月の重要日程

1日 (木) 日 日銀短観(9月調査)	19日 (月) 中 7-9月期GDP
1日 (木) 米 9月ISM製造業	23日 (金) 日 9月CPI
2日 (金) 米 9月雇用統計	28日 (水) 米 FOMC(結果発表)
6日 (火) 日 10年債入札	29日 (木) 米 7-9月期GDP
7日 (水) 米 10年債入札	29日 (木) 欧 ECB理事会(結果発表)
14日 (水) 米 9月CPI	30日 (金) 日 日銀金融政策決定会合

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

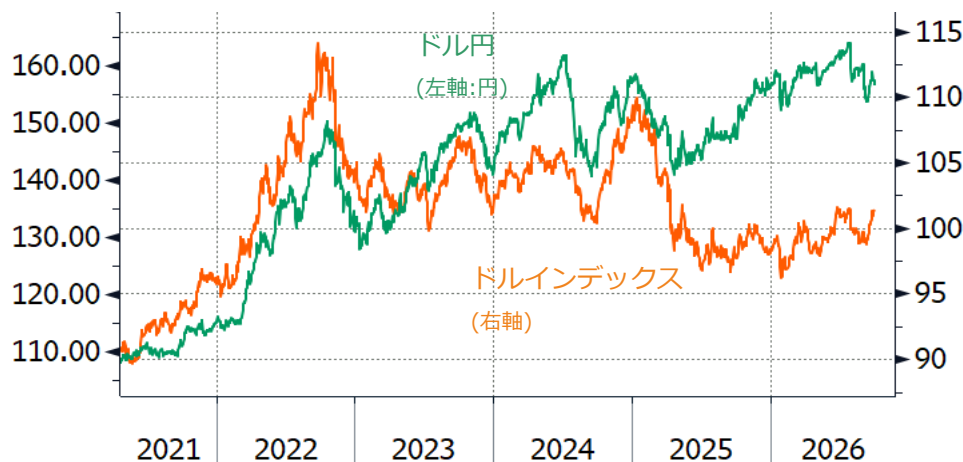
2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

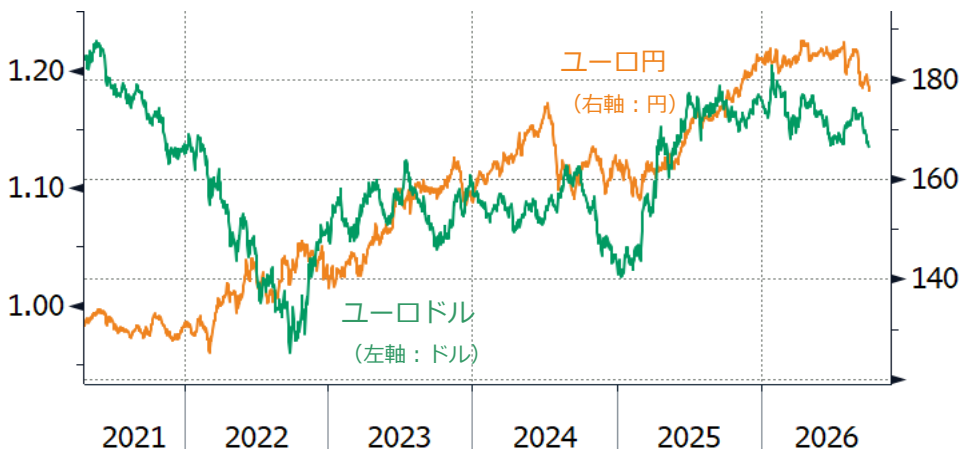
152.00 – 164.00円

米利上げがドルを支えるも、日米の円安けん制が上値を抑制

9月のドル円は160円前後で始まり、日銀の利上げ加速観測や日米による追加介入への警戒から、月前半には一時153円を割り込んだ。その後は米雇用・物価指標の上振れを受けてドルが買い戻され、FRBが16日に政策金利を3.75～4.00%へ引き上げたことも支援材料となった。18日には日銀も政策金利を1.25%へ引き上げたが、利上げペース加速への市場の期待を満たせず、下旬には158円台後半まで反発した。もっとも、日米当局の円安けん制が強まると再び円が買われ、28日には一時156円台へ下落した。

10月のドル円は150円台後半程度を中心とする推移を想定する。米国のインフレ懸念とFRBの追加利上げ観測がドルを支え、日米金利差の急速な縮小は見込みにくい。原油高が続けば、日本の輸入コスト増加も円の重荷となろう。一方、日米当局が円安への対応で連携する姿勢を示しており、円安が加速する局面では追加介入への警戒が強まりやすい。日銀の早期追加利上げ観測や米経済指標の下振れも円買い要因となるため、ドルの底堅さを見込みながらも、一方向の円安は想定しにくい。金融政策への思惑や当局発言を材料に、上下に振れやすい展開となろう。

ユーロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.11 – 1.17ドル

ユーロ円

175.00 – 187.00 円

ECB利上げも、円高と対ドルでの下落が重荷

9月のユーロ円は185円台半ばで始まり、日銀の利上げ加速観測を背景とする円高に押され、月前半には178円台まで下落した。ECBは10日に預金金利を2.50%へ引き上げたものの、米国の利上げ再開や追加引締め観測がユーロの重荷となり、対ドルでは1.16ドル台から1.13ドル台へ下落した。対円では日銀会合後の円売りで180円台へ戻す場面もあったが、下旬にかけては日米当局の円安けん制とユーロドルの下落が上値を抑えた。

10月のユーロ円は180円前後を中心、上値の重い推移を想定する。エネルギー高を背景とするECBの追加利上げ観測がユーロを下支えする一方、FRBも金融引締めを継続する構えであり、対ドルでの大幅な反発は見込みにくい。また、原油・天然ガス価格の高止まりは家計の購買力や企業収益を圧迫し、ユーロ圏の景気を下押ししよう。中東情勢の緩和は反発要因となるが、対円では日銀の追加利上げ観測や介入警戒も残るため、一方向の円安進行は想定しにくい。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

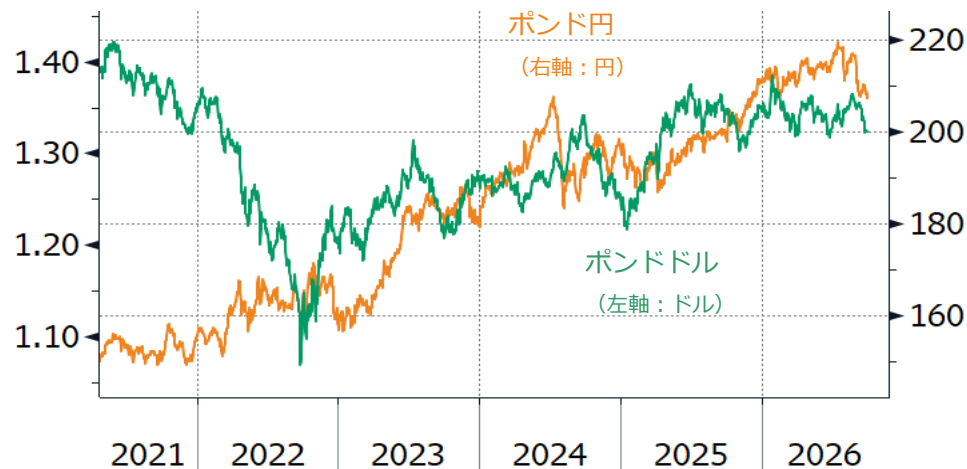
2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



出所: Bloomberg

ポンドドル

1.30 – 1.34ドル

ポンド円

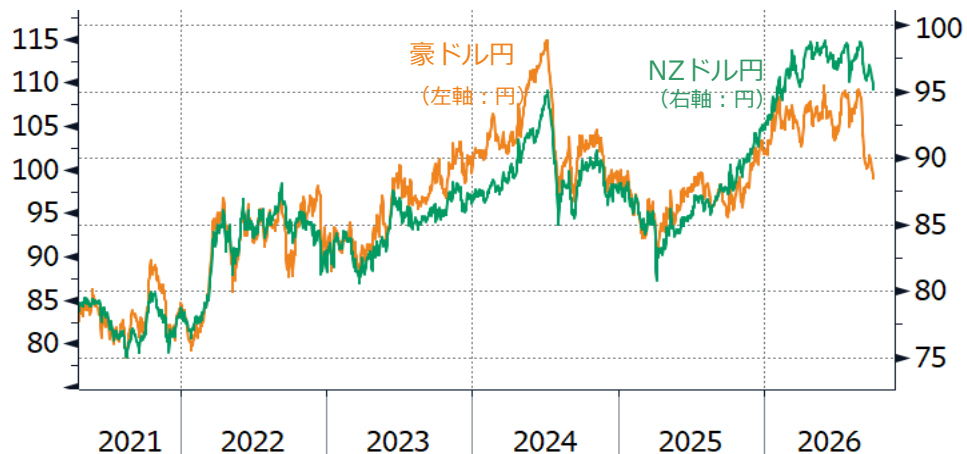
205 – 210円

英ポンドは財政不安が重石も、28日の秋季予算案公表前後で持ち直しへ

9月の英ポンドは軟調に推移した。英中銀は政策金利を3.75%に据え置き、3名が0.25%の利上げを主張したものの、米国景気の強さを背景としたドル高が英ポンドの重石となった。また、英国の財政悪化への警戒から国債利回りが上昇し、対ドルでは1.33ドル近辺まで下落。一方、対円では日銀利上げ後に円安が進んだことで下げ幅を縮小した。英国内のインフレ期待は上昇しており、追加利上げ観測が英ポンドを一定程度下支えた。

10月の英ポンドは対ドルと対円で下値模索後、徐々に持ち直す展開を見込む。28日に公表される秋季予算公表を前にした財政悪化や国債需給への警戒が英ポンドの重石となろう。米国景気の強さと追加利上げ観測を背景としたドル高が上値を抑えたとみる。対円でも日銀の追加利上げ観測や為替介入への警戒もあり、上値は重いであろう。ただし、英中銀の追加利上げ観測が引き続きくすぶるなか、英政府の財政規律を重視する姿勢が確認されれば、悪材料出尽くしから反発に転じる可能性がある。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所: Bloomberg

豪ドル円

108.00 – 112.00円

NZドル円

87.00 – 91.00円

豪ドル・NZドルは中銀の引き締め姿勢継続を支えに持ち直す展開を見込む

9月の豪ドル円・NZドル円は振れの大きい展開となった。月前半は日銀の利上げ観測や米国の円安是正圧力を背景に円高が進み、両通貨とも対円で下落。その後、FRBと日銀がそれぞれ0.25%の利上げを実施すると、材料出尽くしから円安が進み、下げ幅を縮小した。豪ドルはRBAの追加利上げ観測や資源価格の上昇が下支えとなった一方、NZドルは相対的な景気の弱さから豪ドルに比べて戻りが鈍かった。月末にかけては米金利上昇や介入警戒もあり、調整が進行し、対ドル、対円で今月の安値圏で推移した。

10月の豪ドル円・NZドル円は、緩やかに持ち直す展開を見込む。豪ドルはRBAのインフレ警戒姿勢と追加利上げ観測、NZドルはRBNZの金融引き締め姿勢がそれぞれ下支えとなろう。もっとも、米国景気の強さを背景にドル高が続くほか、日銀の追加利上げ観測や円安局面での介入警戒も残る。このため対ドルでは上値が重く、対円でも反発余地は限定的であろう。NZドルは景気の弱さや総選挙を控えた不透明感から、豪ドル対比で上値は重くなろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

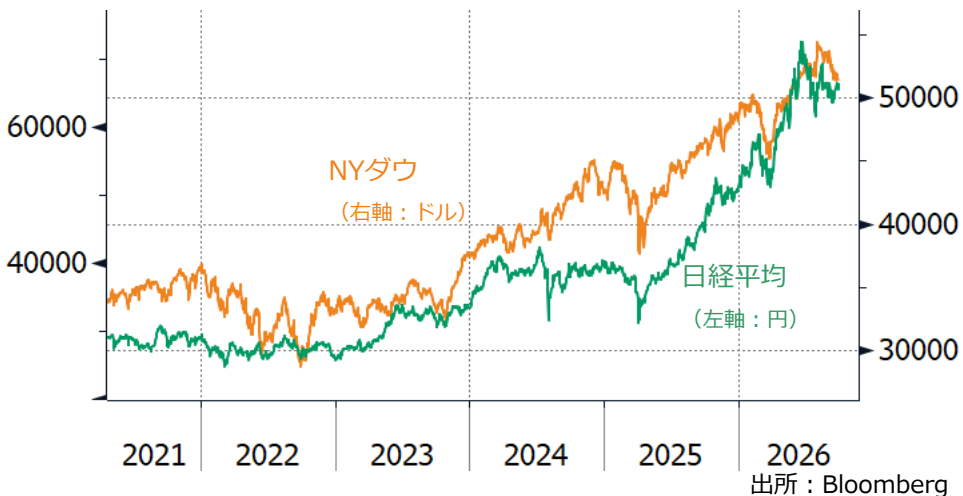
2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

63,000 – 70,000円

中間選挙を控え様子見姿勢が強まろう

こもと、企業業績は堅調だが、株価は上値の重たい展開が続いている。地政学リスクや金利が上昇傾向であること等、種々の理由が考えられるが、最大の原因は中間選挙を控え、投資家が積極的な売買を手控えていることにあるとみている。これまでのところ、中間選挙前の典型的な値動きが確認されており、10月にかけてもこの傾向が続くとすれば、上値は引き続き抑制的となろう。11月からは上昇傾向に回帰するとみているため、押し目買いを推奨する。

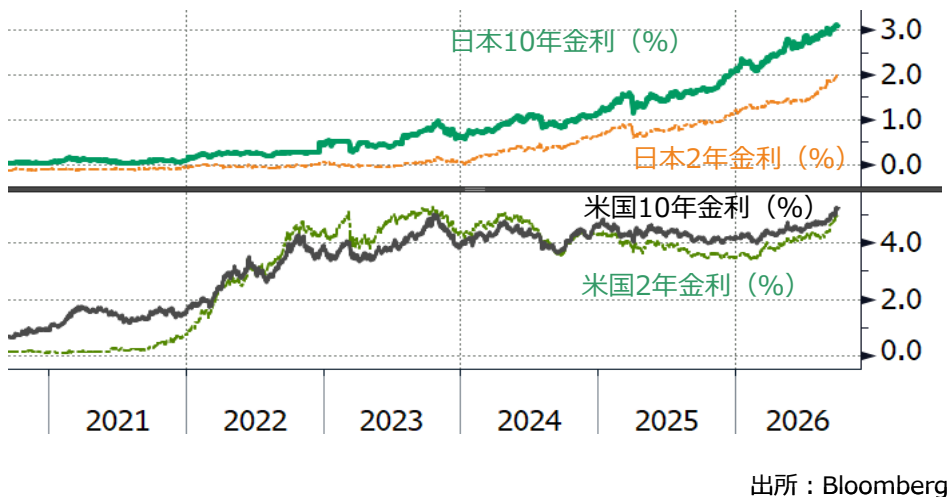
NYダウ

51,500 – 53,500ドル

中間選挙を控え様子見姿勢が強まろう。米国では金利の高止まりもリスク

基本的な見方は日本株と同様であるが、米国の場合は金利上昇が著しく、こちらも株価の上値を抑える要因となっていよう。詳しくは米金利の項を参照して頂きたいが、高金利は継続する公算が大きい。利下げによって復調してきた非ハイテク株の業績に打撃を与える可能性があり、ハイテク比率の低いNYダウは、主要指数の中でも上値の重い展開が予想される。日本同様押し目買いの好機であるが、NYダウではなくナスダックを推奨したい。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

2.90 – 3.20%

利上げ・需給悪化の織り込み進展で金利上昇余地は縮小へ

9月は日銀の追加利上げ観測が強まり、中短期金利の上昇が加速した一方、長期・超長期金利の上昇は限定的となった。10月も月末の日銀会合から中短期金利には上昇圧力が残る。長期・超長期金利も年末に策定される国債発行計画への警戒から上昇しやすい。ただし、市場は既に相応の追加利上げや国債需給の悪化を織り込んでいる。新たな物価上振れ要因や発行増につながる議論がなければ、金利の上昇余地は限られよう。

米国債10年

4.70 – 5.50%

オールドケイジアンvsニューケイジアン

米金利は4.70% – 5.00%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。ただし、これは拙速な利上げ織り込みを前提としたもので、中期的には金利水準は低下する可能性が高い。もっとも、ウォーシュ議長には、バーナンキ議長（ニューケイジアン派の実績ある研究者）時代に、原油高を理由にリーマンショックで停滞する経済を無視して利上げを推進した前科がある。オールドケイジアン的思考に基づき、理想に殉じる場合、金利高が継続するリスクがある。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

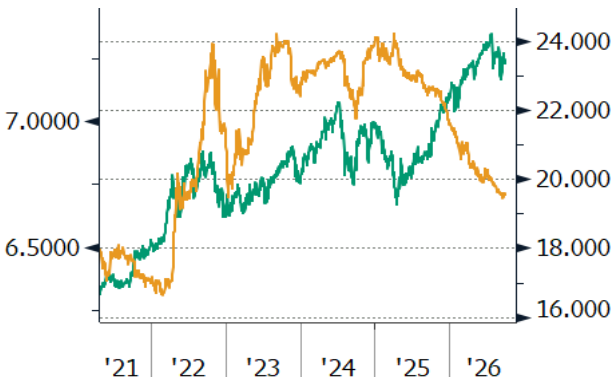
2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

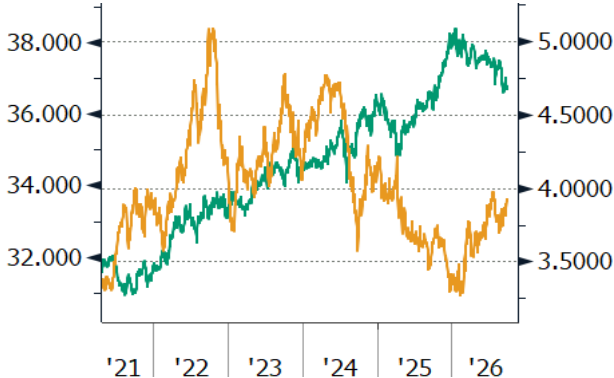
◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		9月の予想			見通し
中国	人民元/円	23.00	～	24.00	人民元は対ドルで底堅く、対円では上値の重い展開 9月の人民元は対ドルで堅調に推移。米中首脳会談への期待や、中国人民銀行による人民元高方向の基準値設定が支援材料となった。もっとも、首脳会談では包括的な合意には至らず、上昇は一服した。10月は対ドルで底堅く、対円で上値の重い展開を予想。政府の景気支援策や良好な輸出が下支えとなる一方、国内需要や不動産市場の弱さが重石となろう。対円では日銀の追加利上げ観測や介入警戒が上値を抑えよう。
	ドル/人民元	6.69	～	6.75	
タイ	バーツ/円	4.55	～	4.80	ファンダメンタルズ面、金融政策面から対ドル・対円で軟調推移 9月のバーツは対ドル・対円で軟調に推移。タイ中銀が政策金利を1.00%に据え置き、緩和的な政策運営を維持したほか、米金利上昇や洪水被害への警戒が重石となった。10月も対ドル・対円で上値の重い展開を予想。ただし、バーツは既に相応に下落しており、追加利下げ観測も限定的。政府の消費支援策や観光需要が下支えとなるため、一方向の調整は見込みにくい。対円では日銀の追加利上げ観測から緩やかな下落となろう。
	ドル/バーツ	33.5	～	34.5	
インド	100ルピア/円	0.85	～	0.90	通貨安定策が下支えも、財政・原油高への警戒が重石 9月のルピアは対ドル・対円で軟調に推移。米金利とドルの上昇に加え、原油高による燃料補助金負担や財政悪化への警戒が重石となった。インドネシア中銀は政策金利を5.75%に据え置き、資金流入促進策を強化した。10月のルピアは安値圏での推移を予想。高い政策金利や中銀の通貨安定策が下支えとなる一方、米国の追加利上げ観測や原油高が上値を抑えよう。対円では日銀の追加利上げ観測も重石となる。
	ドル/ルピア	17,500	～	18,200	

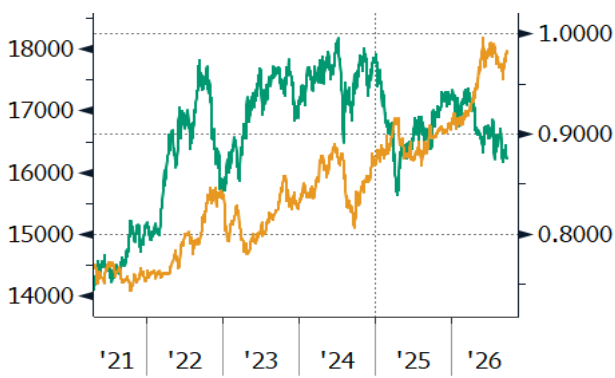
—ドル・人民元（左軸） —人民元・円（右軸）



—ドル・バーツ（左軸） —バーツ・円（右軸）



—ドル・ルピア（左軸） —ルピア・円（右軸）



出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2026年			2027年									ポイント
		10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			
ドル円	レンジ	150	～	170	150	～	170	150	～	170	150	～	170	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。また、FRBの追加利上げ観測もあって日米金利差拡大が意識されやすい。
	期末値	160			160			160			160			
ユーロドル	レンジ	1.10	～	1.22	1.08	～	1.20	1.08	～	1.20	1.08	～	1.20	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受け25年春より急速にユーロ高が進行した。足元ではFRBの追加利上げ観測が高まっているほか、中東情勢が落ち着けば2027年にはECBの利下げ転換が見込まれ、ユーロは一旦これ以上の大幅な上昇は見込みがたいか。
	期末値	1.15			1.14			1.14			1.14			
ユーロ円	レンジ	175	～	195	175	～	195	175	～	195	175	～	195	
	期末値	184			182			182			182			
ポンドドル	レンジ	1.28	～	1.35	1.28	～	1.34	1.28	～	1.34	1.28	～	1.34	英国の政局不安、財政懸念から不安定な展開が想定され、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。英中銀の引き締めスタンスや英財政への懸念が一服となれば徐々に下値リスクは薄らぐであろう。
	期末値	1.32			1.31			1.31			1.31			
ポンド円	レンジ	195	～	215	200	～	220	200	～	220	200	～	220	
	期末値	211			210			210			210			
ドル人民元	レンジ	6.65	～	6.85	6.60	～	6.80	6.55	～	6.75	6.55	～	6.75	堅調な輸出動向を背景に対ドルで元高が進行する展開を見込むが、当局は相場の安定を重視。元高進行も、一方向の動きではなく、緩やかなスピードとなろう。対円でも緩やかな円安基調となろう。
	期末値	6.70			6.65			6.60			6.60			
人民元円	レンジ	23.0	～	24.5	24.0	～	25.5	24.0	～	25.5	24.0	～	25.5	
	期末値	23.9			24.1			24.2			24.2			
豪ドル円	レンジ	110	～	116	108	～	116	108	～	116	108	～	116	豪中銀による追加利上げ姿勢維持は豪ドル円の下支えとなるが、中国景気減速もあり上値は重いであろう。
	期末値	113			112			112			112			
タイバーツ円	レンジ	4.50	～	5.00	4.50	～	4.90	4.50	～	4.90	4.50	～	4.90	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	4.80			4.70			4.70			4.70			

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
10/1(木)	7-9月期日銀短観	9月ISM製造業景況指数		10/19(月)			(中) 7-9月期GDP
10/2(金)	8月労働力調査	8月製造業受注					(中) 9月生産・小売・投資
		9月雇用統計		10/20(火)	20年債入札	9月住宅着工・許可件数	(独) 10月ZEW景気指数
10/5(月)		9月ISM非製造業景況指数		10/21(水)	9月貿易統計	20年債入札	
10/6(火)	10年債入札	3年債入札		10/22(木)			
		8月貿易収支		10/23(金)	9月消費者物価指数		(欧) 10月PMI (速報値)
10/7(水)	8月毎月勤労統計 (速報)	10年債入札		10/26(月)		2年債入札	(独) 10月IFO企業景況感指数
		FOMC議事要旨		10/27(火)		10月消費者信頼感指数	
10/8(木)	30年債入札	30年債入札				5年債入札	
	9月景気ウォッチャー調査					9月新築住宅販売	
10/9(金)	8月家計調査			10/28(水)		FOMC (結果発表)	
10/12(月)	(スポーツの日)	(コロブス記念日)		10/29(木)	2年債入札	7-9月期GDP (速報値)	(欧) ECB定例理事会
10/13(火)	9月企業物価指数	9月中古住宅販売				7年債入札	
10/14(水)	5年債入札	9月CPI	(中) 9月CPI			9月個人所得・消費支出	
		米地区連銀経済報告		10/30(金)	9月鉱工業生産		
10/15(木)	8月機械受注	10月フィラデルフィア連銀製造業景気指数			9月住宅着工件数		
		9月PPI			9月労働力調査		
		9月小売売上高			植田日銀総裁定例会見		
10/16(金)				10/31(土)			(中) 10月PMI



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/11～9/17】

◎ 8月の主要経済指標、投資と小売り低迷

中国国家統計局が15日発表した2026 年 8月の主要経済指標は、鉱工業生産額（一定規模以上の企業対象、付加価値ベース）が前月を上回る増加率を示した一方、固定資産投資（農村を除く）の落ち込みが一段と深刻化し、小売売上高も伸びが鈍化した。好調な輸出に対して内需の低迷が続いており、政府は経済成長目標の達成に向けて景気対策を強めていくとみられる。

【9/18～24】

◎ 外国人訪中客が増加、消費拡大に課題も

中国へのインバウンド（訪中）熱が高まっている。中国商務省研究院がまとめたリポートによると、2025 年に中国を訪れた外国人客は3,517万人（延べ人数、以下同）で、前年から約3割増えて世界10位の規模となった。ただ、観光産業の外国人客への対応には遅れも見られ、訪中客による消費拡大が課題になっている。ニュースサイトの界面新聞などが伝えた。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7	2026/8
実質GDP成長率	%	-	-	4.5	-	-	5.0	-	-	4.3	-	-
消費者物価上昇率	%	0.2	0.7	0.8	0.2	1.3	1	1.2	1.2	1	0.5	0.8
都市部調査失業率	%	5.1	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4	5.2	5.1	5.0	5.2	5.3
輸出額	10億ドル	304.9	330.0	357.2	356.6	299.8	321.0	359.1	376.3	411.8	397.8	401.4
輸入額	10億ドル	216.9	220.1	245.3	236.6	210.5	271.2	274.8	271.3	286.4	285.3	282.4
経常収支	100万ドル	-	-	735,022	-	-	184,300	-	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8	3,342.1	3,410.6	3,442.2	3,416.3	3,418.8	3,438.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.12	7.11	7.04	6.97	6.91	6.90	6.84	6.79	6.78	6.78	6.74

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○今流行りのAIグラス

AIグラスとは、カメラやマイク、スピーカーを内蔵したメガネ型のウェアラブル端末です。見た目は普通のメガネやサングラスとほとんど変わりませんが、内部にはカメラ、マイク、スピーカー、各種センサー、そして生成AIや音声アシスタントが組み込まれています。ユーザーが音声やジェスチャーなどの操作を通じて、撮影や通話、情報検索が行えます。スマートフォンをわざわざ取り出すことなく、より直感的に情報へアクセスしたり、日常の瞬間を記録したりできる点が魅力です。

2024年から2025年にかけてグローバル市場が急速に拡大し、2026年はAIグラスが本格的に一般消費者へ浸透する年と予測されています。中国市場調査会社のデータによると、2026年上半期における中国本土でのAIグラスの販売数は、前年同期比85.5%増の90万9,000台となり、売上高は98.7%増の18億8,000万元（約440億円）に達しました。こうした販売数と売上高とも急成長の背景には政策面での後押しもあります。今年初頭に政府の消費財買い替え補助金制度の対象へ新たに指定され、購入価格の15%（上限500元：約12,000円）が補助されるようになりました。

AIグラスは、日常生活のさまざまな場面でハンズフリーの操作を可能にします。例えば、散歩中に気になった風景を瞬時に撮影したり、遊園地でアトラクションに乗る際動画を撮影したりできます。旅行先では、見知らぬ土地でのナビゲーションや、翻訳機能によるコミュニケーションが役立ちます。

これまでAIグラスは、重量、バッテリー持続時間、処理能力不足といった課題に直面してきました。しかし、足元で光学ディスプレイ、構造設計、チップ統合といった技術革新が進み、さらに業界は現在、「デザイン性」、「軽量性」、「機能性」という3つの主要な方向性に力を入れています。こうした技術の進歩は、市場への急速かつ大規模な普及に向けた道を切り開いています。



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向 りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2026年7月のタイ経済、前月から拡大

- ・タイ中央銀行の報告によると、2026年7月のタイ経済は前月から拡大した。世界的なテクノロジー・AI関連需要の持続が追い風となったことに加え、政府による消費刺激策等が下支えした。
- ・製造業：工業生産指数は前年同月比+0.5%と4カ月ぶりに前年同月を上回った。HDDやエアコン、ピックアップトラック、ペットフード等の生産が増加したことが主な要因。
- ・民間消費：民間消費は前年同月比+3.2%と上昇した。政府の消費刺激や連休による国内旅行の改善を受け、飲食店を中心とするサービス支出が増加した。中東情勢の緩和による外国観光客の増加もサービス業の活動改善につながった。
- ・民間投資：民間投資は前年同月比+12.9%と、前月の+18.6%から低下した。設備投資では、資本財輸入の伸びが鈍化した。建設投資では横ばい。一方、工場建設は増加。

◆ 2026年7月の輸出額、25カ月連続プラス

- ・タイ商務省によると、2026年7月の輸出額は前年同月比で+21.6%増加し、約5兆5,400億円相当に達した。輸出の増加は25カ月連続。電子製品やハイテク分野の投資に関連する物品の伸びが大きく、輸出全体を牽引した。主要工業製品は+24.2%と引き続き好調だった。一方、農産物・加工品は▲1.1%と落ち込んだ。
- ・主要な輸出市場は好調で、米国、中国、日本、欧州連合、アセアンはそれぞれ拡大、日本向けは+21.3%だった。他方、南アジアと中東向けは引き続き減少した。
- ◆ 中国EV急増を受け、タイ政府がEV物品税を見直し
 - ・中国EVの輸入急増を背景に、タイ政府はEV物品税を見直し、2026年9月に原則合意。輸入のみのメーカーには高い税率を適用する一方、タイ国内での生産・投資・部品調達が多いメーカーは税率を低くする。日系メーカーにとっては競争環境の改善につながる事が期待される。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7	2026/8
実質GDP成長率	%	-	-	2.5	-	-	2.8	-	-	1.9	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9	-0.1	2.9	2.8	2.4	2.0	2.5
失業率	%	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	28,915	27,514	29,015	31,573	29,440	35,157	31,583	34,333	34,656	34,789	-
輸入額	100万ドル	32,113	30,026	29,099	34,876	32,273	38,497	41,604	40,044	41,191	38,400	-
経常収支	100万ドル	-1,687	-1,326	3,436	549	1,666	-798	-7,790	-6,432	-3,474	-1,559	-
外貨準備高	10億ドル	272.0	274.7	281.9	289.6	293.9	280.5	287.0	287.5	279.2	275.5	283.1
主要政策金利	%	1.50	1.50	1.25	1.25	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
対ドル為替レート	バーツ	32.6	32.4	31.5	31.3	31.2	32.3	32.3	32.5	32.9	33.5	33.0

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利 出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/9/30

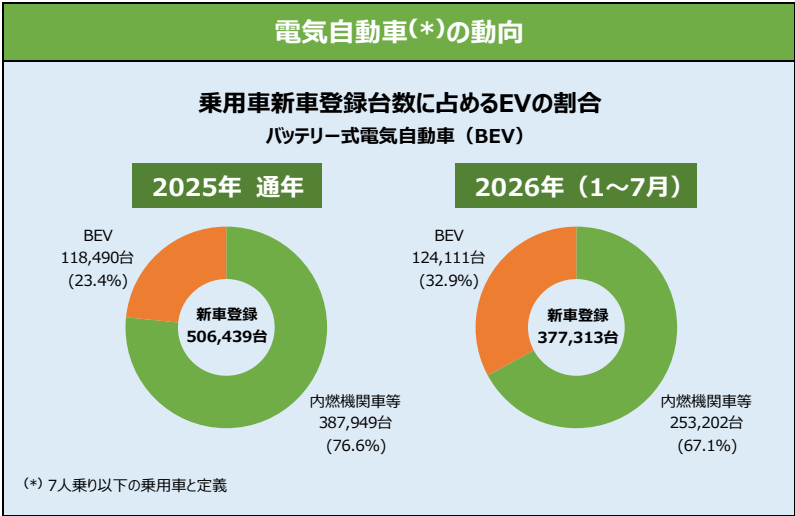
りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

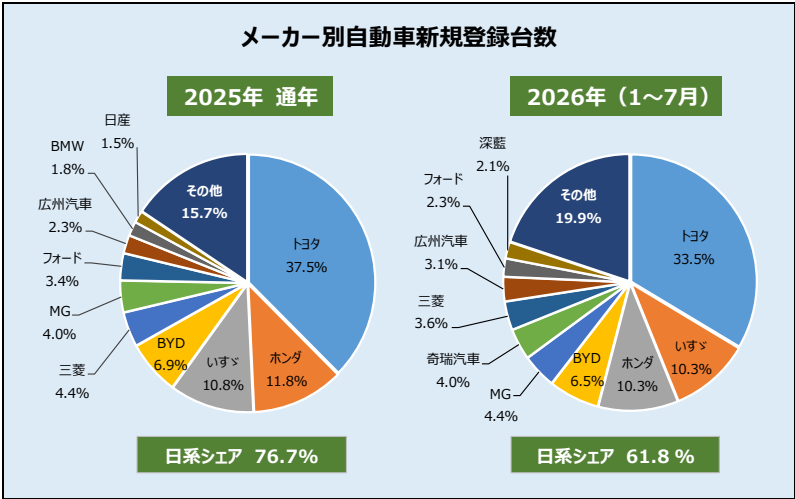
タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向							
		2023年	2024年	2025年	2026年 (1~7月)	前年同期比 (%)	7月
【台数】							
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	299,878	98.9
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	534,717	100.5
		合計	1,841,686	1,468,997	1,455,569	834,595	99.9
	国内販売 台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	148,815	109.2
		商用車	483,275	348,527	381,930	257,347	119.3
		合計	775,780	572,675	621,166	406,162	115.4
二輪	輸出台数		1,117,539	1,019,213	935,750	495,313	93.1
							74,169
	生産台数		2,120,738	1,887,208	1,972,902	1,190,278	98.6
	国内販売台数		1,856,814	1,683,239	1,711,846	1,105,154	105.2
		輸出台数	822,608	938,762	893,198	531,707	104.8
【完成車輸出金額】(百万バーツ)							
四輪		719,992	699,163	621,662	341,427	94.5	52,239
二輪		68,589	63,969	61,596	38,154	103.2	5,151

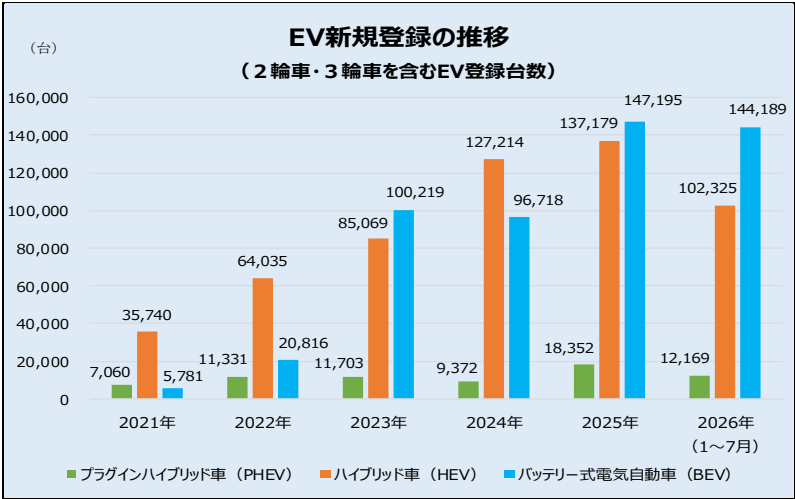
出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを作成



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを作成



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局